

駒場友の会

会報第25号

新入生歓迎特別講演会

駒場友の会では、春の恒例行事として新入生歓迎特別講演会を開催しています。第七回となる今回は、四月十四日(火)午後六時五〇分より駒場キャンパス 21KOMCEE West レクチャールにて「鍛えることの魅力」と題して東大の筋肉博士こと、石井直方先生にお話をいただきました。



運動を行うと筋肉がさまざまなホルモンが分泌され、これらが筋力トレーニング、

ダイエット、糖尿病治療、認知症予防などにおいて重要な役割を果たすことが明らかになってきました。石井先生は一般向けの本を数多く書かれています。石井先生は「鍛えることの魅力」と題して東大の筋肉博士こと、石井直方先生にお話をいただきました。

講演会後は 21KOMCEE の MM ホールに場所を移し、軽食をはさんでの懇談です。石井先生の周りを学生が取り囲み、講演内容について熱心な質問が飛び交いました。「鍛えることの魅力」とともに、「鍛えることについて研究することの魅力」も存分に伝わった講演会となりました。

石井先生は、かつて東京大学理学部およびオックスフォード大学生理学教室に所属して筋肉の生理学的研究を行う傍ら、自ら筋肉を徹底的に鍛え全日本学生パワーリフティング選手権優勝、日本ボディビル選手権大会(ミスター日本)優勝など数々の偉業を達成した異色の経歴の持ち主です。当日は新入生のみならず、ご父母も含め一五〇名の聴衆でほぼ満席でした。

講演では、研究にもトレーニングにも真剣に取り組んできた自らの体験と、これまでの研究を通して得られた科学的知見を分かりやすく紹介されました。筋肉は、力を発揮するという意味では身体のエンジンとして位置づけられますが、一方で身体機能を調整する内臓器官としても重要な意味をもちます。

ご父母と教養学部長との懇談会

駒場キャンパスは毎年五月美しい新緑に包まれます。お子さまが入学され、新しく駒場友の会に入会された方々の

うち二五〇名ほどをお招きして、「ご父母と教養学部長との懇談会」を五月十六日(土)に開催しました。

小川桂一郎学部長の講演、キャンパスツアー、昼食パーティ(生協食堂)の三部構成となっております。講演の後、図書館、講義棟、アドミン棟、課外活動施設、購買部、博物館等にご案内しました。左の写真は講演会場となった新営の 21KOMCEE East 前での受田宏之先生と皆さんの様子です。

「学校のごがよくわかり、先生とお話できて、楽しく有意義な時間でした」「こんな事でもないと、地方に住んでいるためなかなか来れないので、とても良かったです」「素晴らしい環境で、息子が喜んで通う気持ちがよくわかりました」などの感想を頂戴しました。



当日の写真や参加ご父母の感想など詳しい様子はホームページをご覧ください。

<http://www.cu-tokyo.ac.jp/lovekomaba/>

第十二回総会報告

第十二回総会を、五月二三日(土)十六時四十五分より、駒場コミュニティセンター プラザ北館二階多目的教室で開催しました。

小林寛道会長の議事進行により、小川桂一郎学部長の挨拶で始まりました。審議は以下の(一)～(五)の議案について行われました。

(一)二〇一四年度事業報告
瀧田佳子理事より報告がありました。

①懇談会・講演会・演奏会の開催など主催行事は以下の通り。新入生歓迎特別講演会(四月十四日)／ご父母と教養学部長との懇談会(五月十七日)／ホームカミングデイ行事(十月十八日)／第十五回演奏会・チェンバロ演奏／第十六回演奏会・ラテンジャズの夕べ(十一月三日)／ユータスクン学事カレンダラーの製作と販売／ロコモ体操教室の定期開催

②会報の発行、ホームページの拡充
会報は二三号を九月に、二四号を三月に発行

③「学生のための寄付」

恒例の寄付事業を実施し、四月五月に二、七九五、〇〇〇円、年度末に一、二二九、〇〇〇円、計三、九二四、〇〇〇円のご協力をいただいた。お預かりした寄付は、図書の寄贈や学生の国際交流活動の支援などに充てた。(計三、〇八一、一六三円。明細は次頁)

④会員・会友数(三月末日)
終身会員一二三名、通常会員四九一名、

収入の部

	2014年度予算	2014年度実績	2015年度予算
1 会費収入	9,000,000	9,656,000	9,900,000
11 通常会員会費	2,000,000	1,864,000	2,000,000
12 会友会費	6,500,000	6,908,000	7,200,000
13 終身会費	500,000	884,000	700,000
2 寄付収入	4,150,000	3,924,400	5,150,000
21 学生のための寄付	4,000,000	3,924,000	4,800,000
22 その他	150,000	400	350,000
3 事業収入	642,000	799,123	642,000
31 ユータスクンカレンダー2014	217,000	202,363	217,000
32 味覚のアトリエ@駒場	25,000	0	25,000
33 ユータスクンカレンダー2015	400,000	596,760	400,000
4 雑収入	3,500	2,254	2,200
41 預金利息	1,500	1,254	1,200
42 その他	2,000	1,000	1,000
小計	13,795,500	14,381,777	15,684,200
前年度繰越金	9,239,039	9,239,039	9,547,910
合計	23,034,539	23,620,816	25,242,110

支出の部

	2014年度予算	2014年度実績	2015年度予算
1 印刷費	1,072,000	759,914	1,172,000
11 会報・案内等の印刷費	742,000	533,732	772,000
12 封筒・便箋等の印刷費	330,000	226,182	400,000
2 通信費	2,300,000	2,250,741	2,600,000
21 郵送費	2,100,000	2,105,086	2,400,000
22 電話・インターネット使用料	200,000	145,655	200,000
3 事務経費	760,000	862,300	990,000
31 事務用品費	250,000	284,236	400,000
32 ゼロックス使用料	260,000	316,033	320,000
33 会費等振込料金負担分	250,000	262,031	270,000
4 人件費	2,012,500	2,004,340	1,628,750
41 事務局スタッフ	1,612,500	1,770,340	1,128,750
42 臨時	400,000	234,000	500,000
5 運営費	1,641,684	1,731,805	1,794,002
51 事務室借料	211,684	304,002	304,002
52 光熱水料	130,000	115,930	130,000
53 会員証作成費	600,000	851,205	880,000
54 入会勧誘活動費	400,000	103,042	150,000
55 庶務費	300,000	303,950	330,000
56 その他	-	53,676	0
6 事業費	2,000,000	3,382,643	3,500,000
7 寄付	4,000,000	3,081,163	4,000,000
8 予備費	9,316	-	9,448
小計	13,795,500	14,072,906	15,684,200
次年度繰越金	9,239,039	9,547,910	9,547,910
合計	23,034,539	23,620,816	25,242,110

会友三、四八四名。一高同窓会二一四名、東高同窓会九三名。計四、四〇五名(前年度末より三二六名増)

(二)二〇一四年度決算

山本泰事務局長より別表のとおり決算の報告が行われ、大岸良恵監事よりその内容が適切である旨、監査報告がありました。

(三)二〇一五年度事業計画

事務局長より説明がありました。

①懇談会・講演会・演奏会の開催など
 新入生歓迎特別講演会(四月十四日)／新入生父母と教養学部長との懇談会(五月十六日)／ホームカミングデイ行事(十月十七日)第十七回演奏会…卒業生による演奏会／味覚のアトリエ@駒場(十月末)／ロコモ体操教室の定期開催(毎月二回)／ユータスクン

学事カレンダーの製作と販売

②会報の発行
 二五号を九月に、二六号を三月に発行する。

③その他
 「一高同窓会事務の引き継ぎに関する規則」を改定し、事業を二〇一七年まで継続する。

(四)二〇一五年度予算
 事務局長より別表のとおり説明がありました。

(五)役員の選任(一部交代)
 会長…小林寛道 副会長…竹田晃、遠山敦子 理事…浅島誠、江川雅子、小川桂一郎、落合卓四郎、風間勝昭、木畑洋一、小島憲道、瀧田佳子、坪井俊、蓮實重彦、松本健

監事…大岸良恵、長谷川壽一

2014年度「学生のための寄付」
 使途明細

駒場図書館寄贈	1,202,434 円
北京大学交流プログラム補助	400,000 円
駒場祭 2014 協賛金	500,000 円
柏葉会補助	25,175 円
三鷹国際学生宿舍院学生会補助	228,586 円
ハーバード大学交流プログラム補助	382,000 円
三鷹国際学生宿舍設備寄付	342,968 円

以上の議案はすべて提案の通り承認されました。詳細は、駒場友の会のホームページをご参照ください。

教養の森に棲む人たちへ…
 レマン湖畔への誘い

嘉治 美佐子

ジュネーブは人口二〇万に満たない街ですが、政府間国際機関が二〇以上、非政府機関が二〇〇以上あります。欧州国連本部は、世界大戦の再発を防ぐと創られた一九一九年のパリ会議で国際連盟が置かれた白亜の建物で、現在では、軍縮や人権、人道、開発関連の会合が一年中行われています。その向には、国際連盟に先立つこと半世紀戦争がそんなに悲惨であつてよいはずはないというアンリ・デュナンの確信から生まれた赤十字国際委員会の本部があります。

国際連盟の兄弟組織として生まれ、社会正義の実現を目指してきたILO(国際労働機関)、世界の保健水準の向



写真はILO提供。1981年外務省入省。2012年4月から2年間、駒場で教授(国際関係論)を務めた。本稿は筆者の個人的見解である。

上のため基準作りや医薬品の安全対策などを営むWHO(世界保健機関)、感染症対策のために資金を集める世界基金、無線通信の電波の国際的な秩序を守る創設一五〇周年のITU(国際電気通信連合)、知的所有権の各国の制度の調和を目指すWIPO(世界知的所有権機関)、自由で多角的な貿易体制を守ろうとしているWTO(世界貿易機関)、世界的な気象観測網の確立を図るWMO(世界気象機関)、第二次世界大戦後最大という五千万人を超えた難民・避難民を助けようと奔走するUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)やIOM(国際移住機関)、今年三月仙台で開催された防災会議を運営したISDR(国際防災戦略)こうした機関が緑を挟んで隣接しています。

国の外のことであつても、人ごとではなく、人道、人道問題だという発想。人間である以上、自由に生きる権利があるという認識。国際人道法、世

界人権宣言や国連憲章はこれらを体現しています。また、国境を越えた人々のやりとりを、現実のものとするためのルール作りはその必要性から発明・工夫され、科学技術の発達とあいまって発展して来ました。これらはグローバル化の進展が盛んに強調されるようになった今世紀より前から、人類が次第に国家の責任において追求するようになってきた課題です。国際機関はその手段として創られました。

日本は、第二次世界大戦後七〇年間、安定と繁栄を享受してきました。この八月、安倍総理大臣が、そこに至る過程を含めた歴史を振り返り、二度と戦争の惨禍を繰り返さないことを宣言したばかりです。人類は二〇世紀の教訓をくみ取り、国境を越えたやり取りに関するルール作りを地道に行うようになりました。安定した国際環境があったこそ、日本は発展できたのです。緒方貞子が指摘したように、日本が「繁栄の孤島」であることは、ますます現実的でなくなっています。

専門性と技術を提供して国境を越えたルール作りやシステムの運営に携わる人や、現場に飛んで支援活動を行う人は、平和の担い手です。そうした人材の育成が、平和の恩恵に最も与って来た国、就中その最高学府、就中その教養の森に、これほど求められている時はない。モンブランの白い頂が、そう語りかけて来るのです。

(在ジュネーブ日本政府代表部大使、八一年経済学部卒、駒場友の会会員)

学生支援課という仕事

鈴木 智香子

学生支援課は、教養学部正門脇のアドミニストレーション棟一階にあり、教務課窓口(一〜五番窓口)の右側にある六〜八番窓口で、学生の様々な生活面のサポートや相談に応じています。三つの係からなる学生支援課の業務を簡単に紹介します。厚生係は三鷹国際学生宿舎に関する業務、アルバイトの紹介などを、奨学資金係は授業料免除・奨学業務を、学生支援係は通学証明・学割証等の発行、教室・備品借用手続き、学生諸団体の学内活動に伴う業務などを行っています。学内の忘れ物の扱いなどもここです。

私はこの春に本郷に異動になるまで、学生支援係に二年勤務しました。教養学部の学生団体は非常に多数で、学生支援係が対応するものだけでも四三〇くらいはあります。私が主に担当した学生団体の中から二つをご紹介します。いただきます。

まず一つ目はオリエンテーション委員会です。四月の新生活歓迎(以下、新歓)行事の全体的な企画・指導・調整を行っている学生自治団体です。新生活は四月一日前後に一号館一階で入学諸手続きがあり、手続きが終わるとオリエンテーション委員会が管理する新歓活動に参加します。二階で学生自治団体やクラスの案内を受け、銀杏並木側から外に出ます。戸外では、九〇〇番教室脇まで続く通称「テント列」

が続きます。入学諸手続きが終わった新入生をサークルや部活が列をなして出迎え、入会勧誘を行う活動です。

また、東大ならではの「オリ合宿」があります。これは授業開始前にクラス単位で上級生が新入生を連れて合宿に行くもので、一〇〇前後ある全てのクラスが実施しています。同級生との繋がりが作りや先輩達からの学生生活のアドバイスを貰うことで期待だけでなく不安もある新生活を安心して始められます。

二つ目は、「駒場祭委員会(KFC)」です。駒場祭は学生自治団体であるKFCが中心となって企画・運営をしています。駒場祭は来場者が十一万人を超える日本でも最大規模の学園祭です。一〇〇人を超える大所帯です。開催日の三日間だけでなくその前後を含む長い期間、昼夜の区別なく働く学生たちの姿はまさに感動的です。

駒場祭についても大学側は学生支援課が窓口となり関係各署との調整や依頼をし、学生たちの活動を支援します。オリエンテーション委員会と同様に先生方で構成されている学生委員会との協議の調整、講義棟や運動施設の使用許可依頼、物品の援助、駒場保健センター開所依頼、ごみ集積所の確保等々多岐にわたり、学内の様々な部署の協力を得ながら駒場祭を支えています。駒場友の会からは駒場祭に協賛(資金援助)をしていただいています。学生支援係が担当している事務から

もうひとつ紹介させていただきます、それは「一高記念賞」です。

一高記念賞は教養学部および大学院総合文化研究科において、学業、課外活動、社会活動などで特に顕著な業績を上げ、他の学生の範となった学生に与えられる賞で、旧制第一高等学校同窓会の寄付によって平成一五年度に設立されました。平成二六年度までに一四九名が受賞しています。

三月末の学位記伝達式の後に続けて行われる表彰式など、この賞に関連する事務を選考も含めて学生支援係が担当しています。年末年始を含む短い期間に選考から表彰式まで行われるため事務方としては大変ですが、多彩な東大生が打ち込んだ成果発表を見ることができたのは興味深い経験でした。(東京大学人事部、駒場友の会会員)

十年を迎えた京論壇

杉山 実優

京論壇は東大生と北京大生による国際学生議論団体です。今年は九月七日〜十三日に北京で、九月二十八日から十月四日に東京で議論を行います。京論壇は二〇〇五年に中国で激しい反日デモがおきたことを契機に、大学生同士で率直な話し合いをしたいという思いから設立されました。今でこそ大学生の国際交流系団体は多くありますが、十年前はそのようなサークルは数少なかったようです。京論壇の特徴である「お互いの国を訪れること」、「議論を



昨年度は、メディア、社会的責任、若者の3分科会で議論が進められた。写真は、社会的責任分科会の議論の様子。
東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにて
(2014年10月)。

二週間行うこと」、「英語で議論をする」とは、当時はどれも目新しかったと立ち上げに携わった先輩は語ってくれました。

私が初めて京論壇に参加したのは昨年度で、社会的責任分科会に所属していました。幼い時から日本に住んでいる中国人の友達はいたものの、ずっと現地に暮らしている中国人の人と深く話し込んだ経験はありませんでした。また、北京に行く前に北京大の卒業生と話した際、「社会的責任というテーマは中国人が話したがらない事柄だね」と言われてしまい、そもそもこの分科会の議論は成り立つのだろうかという一抹の不安も抱いていました。

しかし実際に議論をしてみると、中の学生で責任意識の違いを感じる局面は思っていたほど多くありませんでした。具体的な状況を比較して「どちらにより社会的責任を感じるか」などの私たちの質問に北京大生は常に真摯

に答えてくれました。議論を通じて出てきた意見の違いは、もはや国や環境の違いではなく個人差であるように私には感じられたのです。

ただ、国レベルの違いを感じた事例が一つだけありました。それは愛国心についてでした。「政治的に対立している国があった際にその相手国の商品ではなく自国の商品を買うか」という質問に対して、ある北京大生は「合理的に考えれば相手国の商品を買わないことは政治的経済的にもほとんど小さな違いにしかならないが、自分の感情としては自国の製品を買いたい」と答えました。議論全体を通じて北京大生は論理的だという印象を抱いていたのですが、この時だけは少し違いました。また、周りの人から自国製品を買うことを期待されているからという意見も聞かれました。この時の議論で北京大生が繰り返したのがUnity is strength(結束は強みだ)という言葉です。

後日、議論のまとめを話し合っていた時に北京大生から興味深い指摘を受けました。それは「東大生は主語をeveryoneとして話すことが多かったが、北京大生はそのような際にmost of usという言い方をする」ということです。多民族国家で生きる中国人に対し、日本人は多様性を意識しないで生きていること、またそれが言葉選びの甘さとしてあらわれてしまったように思いました。このように考えるとUnity is strengthと繰り返しつつも多様性に配慮をしている北京大生と、

unityを自明なものとしてeveryoneという言葉を自然と口にしてしまいう東大生といった構図が浮かび上がってくるように思います。

今年度の京論壇で私は代表を務めます。これから始まる本番では、三つの分科会⇨階層社会、サステナビリティ、平和のそれぞれで発見に満ち溢れた議論が行われることを祈っています。どのテーマも様々な問題意識を含み、そして私たちが抱えている種々の偏見を抱いているものです。北京大生との議論がその偏見を打ち破ってくれることを期待しています。

東京セッションの最終日である十月四日には駒場で最終報告会とシンポジウム(公開)を行います。詳細はホームページ(<http://jingforum.org/jp/event/>)に記載しております。ぜひ奮ってご参加ください。

最後になりましたが、駒場友の会から頂戴している長年のご支援に感謝申し上げます。

(法学部三年、二〇一五年度京論壇代表)

会員懇話会のお知らせ

新規企画として、教養学部教員、OB/OGによる講演会を開催します。会員の方はふるってご参加ください。要予約。参加費一、五〇〇円(昼食代込み)。
第一回「スポーツ・身体運動科学入門」
小林寛道 十一月二三日(月、祝)
第二回「社会学はなぜワンダーなのか」
山本泰 十一月二九日(日)
詳しくは、別紙の案内をご覧ください。

寄付の御礼

この三月から五月の間に会員会友八四五名様より、五、一五五、〇〇〇円を頂きました。厚く御礼申し上げます。

第十四回東京大学ホームカミングデー

十月十七日(土)開催

@本郷キャンパスと駒場キャンパス

爽やかな風に包まれてゆったりとくつろぐことのできる

フランス料理

ルヴェ ソン ヴェール 駒場

駒場友の会の皆様がお食事の際に注文なされたコーヒーは、お支払いの際に会員証・会友証をご提示下さいますと無料になります。

営業時間 11:00 ~ 14:30、17:00 ~ 21:00

Tel: 03-5790-5931 / Fax: 03-5790-1902

駒場ファカルティハウス内

駒場友の会会報 第25号

2015年9月15日発行

駒場友の会

会長 小林寛道

〒153-8902

目黒区駒場3-8-1 東京大学

駒場ファカルティハウス内

電話 03-3467-3536

FAX 03-3465-3334

メール

info-tomo@adm.c.u.tokyo.ac.jp

ホームページ

<http://www.c.u.tokyo.ac.jp/>

[ilovekomaba/](http://www.ilovekomaba/)

デザイン・印刷 株式会社双文社印刷

<http://www.sobun-printing.co.jp>